

「やさしい子になりますように」

お子さんの名前、どんな思いを込めて名付けましたか？

ああでもない、こうでもないと悩んだり、逆にすんなりと決まった方もいるかもしれません。いずれにしても、「こんなふうに育ってくれたら嬉しいな」と、我が子の成長をたくさん考えられたことと思います。

ぬくぬくに来所されたお母さん達からは、「やさしい子になって欲しい」との思いが多く聞かれます。思いやりがあって、物や生き物を大切にできて…、そんなお兄さんお姉さんになれたら、素敵ですね。でもどうしたら、そうなれるのでしょうか？



◆ そもそも、子どもは「自分中心」であたります！

まだ幼い子は、自分のことを客観的に見ることができず、自分の考えと他人の考えが違う、ということが理解できません。このため、叱られても、なぜ自分が叱られるのか、実はよくわかっていないこともあります。

「〇〇したかったんだね。」と、気持ちを代弁してもらったり、様々な場面を経験しながら、「自分の思い通りにいかないこともあるんだ。」と、学んでいきます。

◆ 親の背中を見て育つ？

子どもは、大好きなお父さんお母さんの口調や行動を「まね」します。大人は、「〇〇しなさい」と、つい言葉だけで指示しがちですが、この「まねをしたい」という気持ちを生かして、お父さんお母さんが、実際に物を大切にしているところなどを、お子さんに見せてみましょう。

～ 例えば、ぬくぬくの絵本 ～

「みんなで使うものだから、やさしく（そーっと）さわろうね。」

と、お母さんが静かにテーブルに置き、

「読んだら、もとの場所に戻そうね。」

と、丁寧にしまう。



『どうしたらいいのか声をかけながら、お手本を見せる』ことで、子どもはそれをまね、日々の繰り返しで行動が定着します。

お子さんが大人の行動に関心を示した時には、ぜひ一緒にやってみましょう！

子どもは、周囲の大人をよーく見えています。

もし、大人の言葉と実際の態度に矛盾があったら、子どもは混乱してしまいます。私たち大人も、見られても恥ずかしくない、「やさしい大人」でありたいですね。

